



広島城北高校サッカー部
広島市安佐南区長束1丁目32番16号 〒731-0135
電話 082-239-2522 FAX 082-238-9074



サッカー部の思い出

元監督 田辺範和

はじめにサッカー部の顧問としてかわってききました。その中には、多くの部員と出会いがあり、色々な思い出をもちましたと感謝しています。

誌面の都合上、多くが書けず元来文章を書くことが苦手なもので、名前の出てくる諸君だけでなく名前を上げることの出来ない生徒諸君には失礼であると思いますがお許しくださいという事で書いてみようと思います。

昭和44年に城北に就職してすぐサッカー部の顧問になりました。最初の1年目は中学校の方を見ていました。最初の試合は当時全国大会で2位になった似島中学校との対戦で0・7か0・11で敗れた試合でした。

ゴール前に11人が並んでいても足の間からゴールされ、向こうのゴールキーパーがボールをさわったのは見方のバックパスの1回きりで、はずかしい思いをしたことでした。

2年目からは高校の方を見てみると、当時の本校の浜中常務理事よりコーチとして東洋工業の岡光龍三氏を紹介されました。一面識もないのですが、土井先生より人柄もよくうつつけたとの推薦をうけました、現役を引退されていたが、その時でもアシストで全国でも2位の記録を残されている人でした。当時のキャプテンは土岐君でよく部員をまとめ先生である私の仕事も良くやってくれました。

岡光コーチの指導よろしくて、この年ベスト16に入りました。またサッカー部の合宿も初めて呉の海上自衛隊の宿舎をかり、焼山の三津田高校のグラウンドをかり行いました。この時、城北で初めての合宿をやったので必要書類は白石先生のお世話になり作ったおぼえがあります。合宿の初日は生徒はよるこんで昼寝の時間も遊んでいましたが、岡光さんのやさしい言葉できびしい練習に翌日からはだれもが規則を守るようになりました。

記憶に残っている試合は多くありますが、その中でも特に印象に残っていることを書いてみます。

1年生大会で部員を13人つれて盈進高校グラウンドで対戦したときです。地元なので盈進は応援団がタイコをならし応援でした。ベンチは私と部員2人でさみしい思いをしました。実力的にも盈進が上で雨とあられのシユートをうたれ、もうだめだと思つとゴールのバーにあたり一点いれられるとガタガタになる状態で、なんとか前半は0点で押さえました。後半になつても同じ状態が続きましたが、相手の反則で間接フリーキックをもらいました。キャプテンの中田君は直接だと勘違

いしけるうとすると森下君が間接だと叫んだので中田君はボールをとびこえ、森下君にパスを出しました。森下君のシユートは相手が全然反応もせずゴール、その1点で勝ちました。

また、その時の新人戦で県工と対戦しました。県工には有名な金田、木村がいるチームで前半0・0でしのいだことなど、高校生が戦うのだから気力があればどんなことが起こるかわからないと思いました。

何度ともなくベスト8をかけて戦いました。中々そのカベを破ることが出来ませんでした。その中でも涙をのんだ試合は小川君、白井君、桂君、堀部君のチームもありました。長年の夢を達成したのは万力君、花口君、岡本君、恵南君、吉上君、村上君、繁田君、吉川君のチーム

春はベスト8をかけ井口高校、恵南君のパスを万力君のシユート、万力君の個人技によりキーパーをはずし2・0で勝ち、ベスト4を駆け可部高校の対戦は1・0で時間のたつのがおそく胃が悪くなる試合でした。

準決勝は国泰寺高校とロビングボールをキーパー村上君と相手FWとぶつかりボールをもつたまま手から落ち、こぼれ球をショートされその時で手首の骨を折つたまま2点目もいれられ、1・2で敗れた試合、秋も準決勝で国泰寺とあたり0・1で敗れました。今思い出しても残念でしたかありません。

この様に強くなったのは無報酬で毎日曜日ごとみていただいた岡光さんに感謝していますし、多くの保護者の暖かい応援があったことだと思つています。まだ書くことはたくさんあると思ついますが、メ切りを過ぎていきますのでこのくらいにします。

ガンバレ！ 城北高校サッカー部



(株)タイ・アンド・ギー
広島県広島市中区富士見町2-19
TEL 082-243-9009



広島城北高校サッカー部OB会長

19回生 吉川英司

城北高校サッカー部OBの皆様、こんにちは。平素はこのOB会活動に多大のご支援ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ふと、思い起こしますと10年前に私の同級生の宮本先生が母校城北高校の舎監をしながらサッカー部の監督になり、少ない給料の中からサッカー部の活動資金を一生懸命捻出していただきました。そういう部分をみじんにもみせなかつた宮本監督ですが、ある時飲みに行った席で『上記事実』を知りました。

その時、勢いで『OB会を発足させよう!!』という運びになり、このOB会を発足させたのです。時の経つのははやいもので、もうその勢いで発足させたこの会も、はや5年を迎えます。

この、5年という時間を1つの節目とし今回の会報を発行する運びとなりました。我々が過ごした城北時代と比べ、現在は勉強もでき全国の有名な大学へ進学していると聞きます。しかし、肝心のクラブ活動は？というところ...

しかし、考えてみてください。現在既に大学を卒業し会社勤めしているOBの皆さん！懐かしくありませんか？時間が有り余っていたあの頃。責任が無かつたあの頃。やはり、各自みんな共通して思うことでしょうか。『まだまだやれたな！あの合宿は...』

こんな思いを可愛い後輩たちに、させないようにならねば、やれるうちに手を抜かず全力でトライする。という、基本的な事を是非教えてあげて下さい。その為に、時間があれば是非母校のグラウンドへ足を運んで下さい。では、また来年の初蹴りに元気な顔で会えることを楽しみにしています。

末筆ながら、皆様のますますのご発展を祈念するとともに、従来に増してのご協力をお願いいたします。

城北サッカー部での思い出

29回生 矢田貝智史

皆さん、こんにちは。29回生の矢田貝智史です。大学を卒業し、社会に出て早3年目。高校にいたつては卒業後7年目となりました。

なかだかあつと言う間ですね。今でも一応サッカーは続けておりますが、何だか急激に歳食つたなあと痛感しています。宮本先生達もこんな風に感じながら歳とっていったのかなあと思う今日このごろです。(失礼しました。)

城北での思い出はまあたくさんあるのですが、時々(とはいえ年に1回の初蹴りくらい)学校へ行くとき、'メーブル'があります。このコンピニにはよく寄つたものです。その代わりに場所は違いますが「ココストア」が出来ておりました。また、お好み焼きの「まるちゃん」もありません。ここのお好み焼きは安くて量が多かつたので、これまたよく利用しました。そば玉がトリプルまでありました。宗田がよく注文していました。ただ、あんまり美味しなかつた記憶があります。

名前が出たついでに、宗田ネタをもう一つあげると、「宗田15秒伝説」、「伝説の15秒」とまあどちらでもいいのですが、なんとなくお分かりでしょう。ある日の城北グラウンドでの練習試合、彼はFWとして試合途中から交代メンバーとして出場しました。が、その総出場時間はたったの15秒。その間彼は何をしたらかと言えば、1ダッシュ・1声・1ボール踏み・1ネンザ・1叫び：以上です。今でも語り継がれていますよ。

これらはほんのさわりで、数あげれば限りない城北での思い出ですが、最も印象的なものと言え、やっぱ、最後のインターハイ予選対沼田高校戦ですね。なんせ全国大会出場チームにもかしら(その試合中は50%くらい、試合後は10%くらい、今思うと0.1%くらい)、勝てる気がした試合だったからです。なんせ後半20分頃まで、檜崎のパスと金口のシユートで取つた1点で勝つてましたからね。結局負けちゃいましたけど...でもあの試合は熱かつた。宮本先生はどんな気持ちでベンチにいたのかなあ。

おつとごめんなさい。他人の思い出なんか、長々と読みたいくも、聞きたくもないですね。最後に、今の、そしてこれからの学生達に向けてですが、社会に出てしまつてあと少ししかありません。サッカーがおもしろい出来たのもあと少ししかありません。時々、OBの為にとかOBの意志を継いで一生懸命とか言う人もいますがそれは違います。自分の、自分達の為に一生懸命やるのです。その中から、自然とよい思い出は生まれてくるでしょう。城北サッカー部で、ぜひ作つてみて下さい。よい思い出を。

以上

*ここに掲載されている個人名は、本人の許可なく勝手に使われていたことはありません。事後報告いたします。

29回生 金口時久

最近、「また高校生かあ。」「物騒になったね。」等といった言葉をよく口に、耳にします。16、17歳の少年による事件の話題が出てこない日がないんじゃないかと思うくらいですね。それもあってか、会社の同僚や、大学時代の友人と、自分達の高校時代の話をする機会が多いような気がします。

高校時代の過ごし方なんてのは、もちろん人それぞれですが、自分にとっての高校時代は、城北サッカー部のネタなしでは語れないくらいサッカーでしたね。しかし、思い出す事といたら非常にくだらない事で、もっと美しい思い出はなかったらどうかと。ただ、くだらない思い出の中に、楽しかった、ツラかった、苦勞したといった感情が鮮明に残って、それをとても大事にしている自分がいて、またそれがあってから自分らしくいられるんだらうと思っています。社会人になって、一緒に苦勞した友人がいるというのは、大切な財産なんだと特に感じます。

こんなに自分の中で良い思い出であるサッカー部時代ですが、もし、あの頃の環境に戻ったら、あの頃のように楽しいかという？ですね。きっと別の事を思い感じるのでしょうね、今は高校時代の自分ではないし（だからとって、今は社会のしがらみとかで、汚れてしまったということではないのですよ！）、ただそれよりも、こうやって「あの頃は、・・・」なんて昔話をするのが楽しいという事ですね。とツラツラと熱く語ってしまふあたりがしみじみ老けたなと。話が変わって、自分の近況ですが、東京で大学を4年で卒業した後、横浜にある技術系の派遣会社に就職して、社会人1年目より派遣された会社で、IC開発をやっています。自分に合った仕事を探す意味で派遣会社に就職したというよりは、なんでもやってみたくったという意識の方が強かったですね。

今やっている仕事は大変なことも多いですが、やりがいを感じています。あつという間に社会人3年目で、時が経つのが早いと感じているだけに、後悔のないよう充実した日々を送りたいという思いが強くなりましたね、今の興味の一つは、30歳になった自分が何をしているのかですね。また、20代の社会人生活をどう振り返りどう感じるのが楽しみでもあり、不安ですね。最後にになりましたが、OB会報発行おめでとうございます。会報発行により、城北サッカー部OB会が更に発展していくことを願っています。

「継続は力なり」

34回生 岡本英明

「高校に入ったことだし、何か運動しよう。」そう思ったのがこの城北サッカー部に入ったきっかけだった。宮本先生は入部の時の説明で「本気でやる気のある奴だけ入れ。」とおっしゃっていたが「まあなんとかなるだろう。」と気楽に入った。しかし同期の友人、先輩が楽しくていつの間にかやらなくなってしまった。中学の時は流行りに流されバスケット部に入ったが1年間でやめてしまったので、「高校では何か3年間続けよう。」と決めていたことも続けられた理由の一つだろう。しかし最初の一年間、自分は全くダメな部員だった。練習をサボって友達と麻雀をしていたこともあった。二年生になって先輩がいなくなり、先輩ができてはじめて「これからは自分でやらなければ。」という自覚を持てるようになった。その矢先に父が死んだ。約2年間に及ぶ闘病生活の末、惜しくも死んでしまった。病氣と闘う父の姿を、自分は一生忘れることはないだろう。先輩がいなくなり、そして父がいなくなった。その2つの出来事が自分を大きく変える要因になった。2つの事柄の共通点は「心の支え」がなくなったことだった。が、同時に起こったことで逆に「自分で自分を支える」ことができるようになったと思う。しかしよく考えてみると「自分でやらなければ」と思えたのは、サッカー部で責任のある立場に立っていた時期と父の死が重なったからだろう。でなければそこまで自分が変わることがなかったように思う。

部活とは一体何のためにやるのだろうか？大会で優勝するため？自分が上達するため？それらはみんな自己満足でしかない。確かに部活をやっている時には試合で勝つことや自分が上手くなることしか頭になくなってしまうものだ。しかし長い目で見てみると決してそれだけではないことがわかる。強くなる、上手くなるという目標のもとでみんなで協力し、努力し、考えながらそれ自体を維持することに意義があるのだと思う。それまたただ継続するだけではない。部活では継続していくうちに短期間で自分を取り巻く環境、自分の立場が変わってしまう。先輩がいなくなり、後輩ができる。後輩に変なトコロはみせられないし「負けられない」ようになる。先輩、同期、後輩というタテとヨコのつながりもできる。また、引退を実感したり責任も増大する。継続することで部活では定められた期間でそういった多くの変化を体験できるのだ。人生では何度か自分の中で内面的な変化が起こるだろう。それが起こった時、自分がいい状況にいれば変化がよい方向に進み、大きく前へ進むことができる。部活では常に状況

が変化し、自分に責任があり、変化が起こるいいフィールドになっていると思う。目標がなければ物事は続かない。だから試合に勝つことやいろいろな賞をもらうことは大事な目標であり、とても必要なことだ。しかしそれ以上には部活を継続していくことを通じて自分内面的に成長することこそが一番大事な事だと思ふ。内面的な成長は自分の「力」となる。これこそ「継続は力なり」だ。自分の場合はその変化がこの城北サッカー部で起こった。この部に入ったおかげでかけがえのない友人もできたし、自分自身として大きく飛躍することができた。ついてたはそれを支えてくれた部の仲間達、寛容に自分を見てくれた先生方、先輩方に感謝したいと思う。

近況報告

今年も県新人大会、県高校総体の二つの大会が終わりました。残念ながら広島城北高校サッカー部は、この二つの大会においても、目標の県大会出場を果たすことはできませんでした。両大会の戦いぶりを報告します。

～広島県高校新人大会～

第1戦は海田高校と対戦した。県選抜候補選手を数人抱える同校に対して、平尾を中心としたディフェンスで耐え、カウンターから何度も相手ゴールに迫ったが、得点を奪うことはできなかった。両チーム無得点のまま試合終了直前、PK合戦突入を想定して、PKを得意とするゴールキーパー山田を投入した。期待に応じて山田が相手キッカーをストップする活躍を見せ、4-1でPK合戦を勝利した。

続く第2戦は、何年前には全国大会出場の実績もある、強豪・美鈴が丘高校と対戦した。押され気味の試合展開だったが、西岡のゴールで先取点を奪い、城北ペースに持ち込んだ。しかしこちらのミスから同点にされ、気落ちしたところに決勝点となるゴールを奪われた。

県大会出場の可能性がなくなった第3戦は熊野高校と対戦し、7-0と圧勝した。

～広島県高校総体 広島地区予選～

3チームでのリーグ戦となった今大会は、第1戦で西高校と対戦した。終始安定した戦いぶり、1点は失ったものの4-1で圧勝した。

県大会出場をかけた続く第2戦は、広島工大高校と対戦した。松森を中心に何度か決定的チャンスを作ったが得点を奪うことができず、逆に1点を先制されてそのまま前半を終了した。後半立ち上がりも相手ペースでスタートし2点目を奪われたが、ここから奮起してペースを取り戻し、松森のゴールで1点差に追いついた。しかしその直後にカウンターから決定的な3点目を奪われた。城北も意地を見せて、試合終了間際にはコーナーキックから前田がヘディングシュートを決めて1点差としたが、反撃もわずかに届かずそのまま試合終了を迎えた。今大会もあと一歩及ばず、県大会出場を果たすことはできなかった。

～新チーム～

今年度もすでに新チームがスタートしています。キャプテンには八幡FC出身の高山芳典、副キャプテンには広島城北中学校サッカー部出身の横島渉、西岡寿彦がそれぞれ就任しました。この3人を中心に、チームは現在個人レベルの技術力、戦術眼の向上をめざして、日々練習に取り組んでいます。

広島城北高校サッカー部を取り巻く環境は、ここ数年間で劇的に変わりました。私も現在週2回(最近仕事の関係で週1回だったりしますが)チームの指導にあたらせてもらっています。試合の応援に来られる保護者の方が年々増えてきており、特に各大会で他の高校に負けない熱い声援を送ってもらえることは、非常に心強い限りです。

また、広島城北高校サッカー部OB会は、この度発足から5周年目を迎えることができました。私もOBの一人として大変うれしく感じています。吉川会長をはじめ、OB会の発足にあたられた方々には多くの苦勞があったことと思いますが、毎年恒例正月の初蹴りに訪れるOBの人数も年々増えてきており、現役チームを応援する組織として着実に成長しています。もちろん現役サッカー部の活躍は必要不可欠ですが、現在中学校サッカー部も大下先生の指導のもと、着実に力をつけており、広島城北高校サッカー部がここ何年かのうちに県大会出場といわず、県内でもトップレベルに近い力を持ったチームになる、そういった可能性は十分に秘めています。そうなった時に保護者会、OB会などがしっかりした組織として、現役チームのバックアップにあたることできれば、広島城北高校サッカー部は真の強豪チームとなることができるでしょう。

これからますますOBの人数は増えてきます。OB全体で集まる機会は1年に1度しかなくても、同期の仲間や仲のよかった先輩、後輩とは普段からできるだけ連絡を取りあってほしいものです。そういった横のつながりの強さが、OB会という組織全体の結束を強めていくのだと思います。

まずは県大会出場を、それが現役チームの我々スタッフの当面の使命ですが、勝つことと質の高いサッカーをすること、この二つの目標を達成できるようこれからもより一層努力していくことを、OBのみなさんに約束します。

広島城北サッカー部コーチ 24回生 岩井竜彦

QPONのひとり言

また、「県」に届かず... 10年間この繰り返し、いつになったら... 6年前に書いた、「城北強化プラン」 OB会・保護者会の結成、スタッフの充実、中学校の強化、... 少しは、実現しているかな。

SAIJODAN みんなの居場所 “城北サッカー部”

みんなのHOMEGROUND “SAIJODAN”へ帰ってきてください。

“Play hard together! Smile hard together!”

OB会5周年を記念して、横断幕を作ってもらうことにしました

みなさんのご期待には、応えられていませんが今後もスタッフ、選手と共に精一杯頑張りたいと思います。みんなの夢“サックス&ブラックのユニホームが国立でみられる日”まで住所が変更された方、会報誌が届かない方は、下記にご連絡ください。



〒735-0012 広島県安芸郡府中町八幡4-3-20 TEL 082-283-3749 携帯 090-2296-5967 宮本 誠

E-mail qpon@do.enjoy.ne.jp

OB会費徴収について

心あるOBの方におかれましては、趣旨賛同のうえ、ご協力お願い致します。

振り込み先 郵便貯金 記号15140 番号31802191 広島城北高等学校サッカー部OB会 吉川英司 会費 一口 5,000円